

頭痛・歯痛・神経痛・生理痛・解熱

ハイメーセ

第②類医薬品



使用上の注意

**してはいけないこと**

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

1. 次の人は服用しないでください。

- (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬

3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。

(眠気があらわれることがあります。)

4. 服用時は飲酒しないでください。**5. 長期連用しないでください。****相談すること****1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。**

- (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15歳未満)。
- (4) 高齢者。
- (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
- (6) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (7) 次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談してください。**(1) 服用後、次の症状があらわれた場合**

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい

まれに裏面の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさ等があらわれます。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激しい症状が、全身の皮ふ、口や目の粘膜にあらわれます。
肝機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮ふや白目が黄色くなる)等があらわれます。
ぜんそく	

(2) 5～6回服用しても症状がよくならない場合

効能又は効果

- (1) 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛。
- (2) 悪寒・発熱時の解熱。

用法及び用量

次の量を、なるべく空腹時をさけて服用してください。

年 齢	1 回量	1 日服用回数	服用間隔
15歳以上	1 包	3 回を限度	4 時間以上
11歳以上15歳未満	2/3包		
7歳以上11歳未満	1/2包		
3歳以上7歳未満	1/3包		
3歳未満	服用させないこと		

小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。

成分及び分量(3包)中

アセトアミノフェン……………900mg エテンザミド……………800mg
 プロモバレルリ尿素……………510mg 無水カフェイン……………150mg
 添加物として乳糖水和物、カルメロースCa、ヒドロキシプロピルセルロース、リボフラビンリン酸エステルNaを含有する。

保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光の当たらない、湿気の少ない、涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4) 1包を分割した残りを使用する場合には、袋の口を折り返して保管し、2日以内に服用してください。
- (5) 期限をすぎた製品は服用しないでください。

お客様相談窓口 TEL 076-476-1111
 9:00～16:30(土、日、祝祭日は除きます。)



製造販売元
明治製薬株式会社
 富山県滑川市中川原77